

## ■ 経緯

- ICカードの導入に際し、市電は「ニモカ」を、バスや電鉄電車は「くまモンのICカード」をメインの決済手段として選択。利便性確保のため市電では「くまモンのICカード」、バスでは「全国ICカード」が利用できる環境を追加構築し、相互に利用可能な環境を整備。
- このような中、熊本においては、令和7年（2025年）3月末にICカードに関する機器の保守契約が終了となる。安定的に運用するためには機器交換などの更新が必要。

## ■ 利用状況

	路線バス		市電		電鉄電車		合計	
	構成比	利用者	構成比	利用者	構成比	利用者	構成比	利用者
全国IC	20%	500万人/年	59%	590万人/年	13%	23万人/年	<b>30%</b>	<b>1,113万人/年</b>
くまモンIC	51%	1,275万人/年	16%	160万人/年	62%	110万人/年	<b>42%</b>	<b>1,545万人/年</b>
内、おでかけIC	(17%)	(425万人/年)	(10%)	(100万人/年)	(5%)	(10万人/年)	(15%)	(535万人/年)
現金など	29%	725万人/年	25%	250万人/年	25%	44万人/年	28%	1,019万人/年
合計	100%	2,500万人/年	100%	1,000万人/年	100%	177万人/年	100%	3,677万人/年



▲全国ICカード（スイカ・ニモカなど）



▲くまモンのICカード

## ■ 現状

バス・電鉄電車では、バス車内の車載器や営業所の端末などの更新に**約12億円が必要**となる見込み。全国的に見るとVISAタッチやQRコード決済を新たに追加導入する交通事業者が出てきている。



現在、バス事業者など関係者と、利便性・経済性・将来性の観点から対応について調査検討中。今後、更に検討を深めていく予定。